

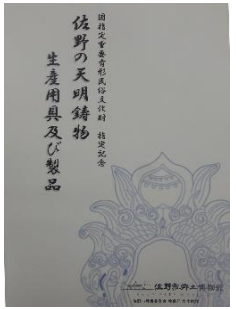
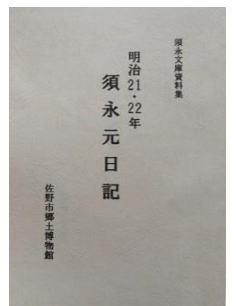
図 録	発 行 年	回	題	価 格	内 容
	令和7年 4月		佐野の 遺跡	300円	佐野市内で出土した旧石器時代から奈良・平安時代の出土品とともに各時代の代表的な遺跡を紹介しています。これから初めて佐野の遺跡や、発掘調査のことを学びたい方の入門書としてもおすすめです。
	令和6年 10月	第78回	戦国時代を 生き抜いた 佐野氏と唐 沢山城	2,500円	唐沢山城跡国指定史跡化10周年を記念して開催された企画展。長年所在不明であった佐野家資料群を写真付きで掲載。幻の豊臣・徳川氏発給文書と共に、唐沢山城主である佐野氏に焦点をあてる。今まで豊臣方の大名と認識されていた佐野氏だが、比較的早い段階から徳川氏とも繋がりがあったことがわかった。
	令和6年 7月		佐野の 天明鋳 物生産 用具及 び製品	700円	天明鋳物生産用具の国指定重要有形民俗文化財の指定を記念した展示会。本図録には、天明鋳物の歴史と制作方法等が記され、佐野の天明鋳物について理解しやすくまとめられた一冊となっている。
	令和5年 10月	第77回	未公開 文書か らたど る田中 正造	1,500円	田中正造没後110年、栃木県誕生150周年、開館40周年を記念した企画展図録。旧黒澤酉蔵家文書を中心に紹介。黒澤酉蔵は直訴後、田中正造の弟子となり、4年間行動を共にした酪農家、教育者、政治家である。「郷土の偉人」田中正造の思想や行動について、新たな視点で考察できる貴重な資料が掲載されている。
	令和5年 3月		須永文 庫資料 集 明治 21・22 年須永 元日記	600円	須永元の青年期にあたる明治21・22年の日記を翻刻したもの。当時の一流漢詩人や漢学者、田中正造をはじめとする佐野の人々、金玉均や朴泳孝などの亡命朝鮮人との様々な人々との活発な交流を綴っている。
	令和5年3 月秋	第76回	古代三 轟山周 辺の生 産遺跡 と役所・ 寺院	200円	古代三轟山周辺の生産遺跡と役所・寺院をフルカラーで紹介。近年の調査で下野国の古代史では知られていない「靈光寺」という寺院銘をもつ瓦など、あなたの知らない世界がまだあります。

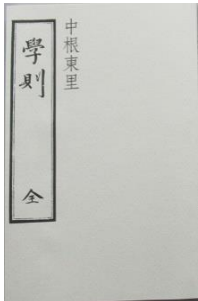
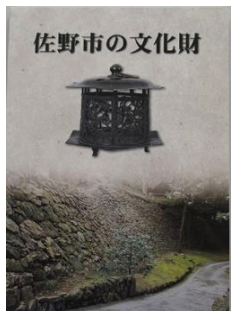
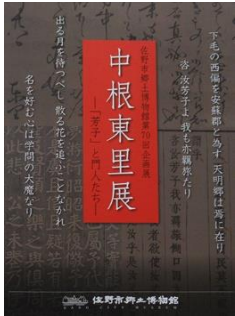
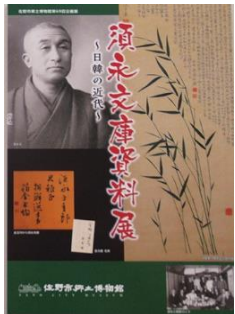
図 録	発 行 年	回	題	価 格	内 容
	令和3年春	第73回	朝日森天満宮	200円	佐野市の朝日森天満宮に伝わる奉納品を掲載。全国的にも貴重な文化財が多数保管されており、朝日森天満宮の歴史と信仰について学ぶことができる1冊となっている。
	令和2年		中根東里「學則」	800円	「學則」は中根東里が元文3年(1737)に泥月庵で執筆したものである。のちに門人により版木が作られ、冊子になって教科書として使用されたと考えられる。その版面を復元したもので、原文と訓読がある。
	令和元年		佐野市の文化財	2,000円	佐野市の文化財259件をすべてオールカラーでわかりやすく紹介する。また、佐野市のあゆみについてもまとめられており、これを読めば佐野歴史博士になれる。
	令和元年秋	第70回	中根東里展	1,200円	中根東里は江戸中期に佐野に長く滞在し、多くの門人を育成した。名を求めず、利を追わず、終世独身で学求に努めた東里と、姪の「芳子」と門人たちについて紹介する。
	令和元年春	第69回	須永文庫資料展	800円	須永元は金玉均や朴泳孝などの亡命朝鮮開化派の人々と親交を深めた。彼らの関係資料を中心に、日韓の近代を振り返るとともに、須永が愛した朝鮮近代書画を紹介している。
	平成28年秋	第64回	宮島文庫から たどる 田中正造	1,000円	郷土博物館では、田中正造と足尾鉾毒事件に関する資料を宮島文庫として佐野高等学校から寄託を受けている。川俣事件の裁判や、あくび事件に関する書簡、谷中に入ってから晩年に至るまでの書簡などで、可能な限り掲載されている。

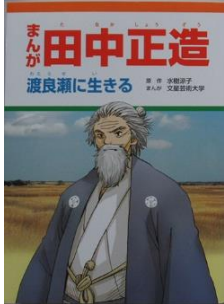
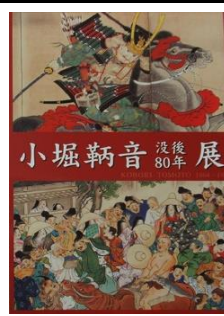
図 録	発 行 年	回	題	価 格	内 容
	平成24年		まんが 田中正 造 渡良 瀬に生 きる	1,000円	田中正造の一生をまんがで分かりやすくまとめている。田中正造のことを初めて学ぶ方にはおすす めの一冊。
	平成25年 春	第59回	看板！ かんぱ ん？カン バン!?	700円	昔懐かしいカラフルなホーロー看板から、江戸時代 の高札や商品を模った木製看板も紹介している。 商品を模った木製看板はなぞなぞのようで面白 い。
	平成24年 秋	第58回	佐野の 狢犬 阿吶の 世界	800円	佐野市内の狢犬を中心に紹介する。神社でおなじ みの狢犬だが、本書に触れることで、今後は奉納者 や、その地域の様子、彫った石工など、様々な視点 で観察することができる。
	平成23年 秋	第56回	小堀鞆 音没後 80年展	1,300円	小堀鞆音没後80年を迎えるにあたり、佐野市郷土 博物館と佐野市立吉澤記念美術館の2館で展覧会 を行った時の図録である。展示作品を大きく掲載し ており、作品を細部まで観察することができる。
	平成23年 春	第55回	絵葉書 にみる 佐野	800円	明治から昭和初期の佐野の様子を絵葉書を中心に 紹介する。田中正造葬儀記念絵葉書、唐沢山や蓬萊 山などをはじめとする観光名所絵葉書などがあ る。かつての佐野の町の様子が、絵葉書に残されて おり、現在との比較をするのも面白い。
	平成21年 春	第51回	須永文 庫資料 展	700円	須永元は豪農で水車業を営む佐野市出身の実業家 である。須永元の収集した「須永文庫資料」の中か ら近代の漢詩人、書家、政治家等の作品を紹介す る。

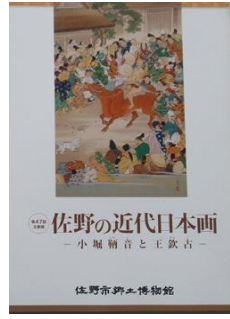
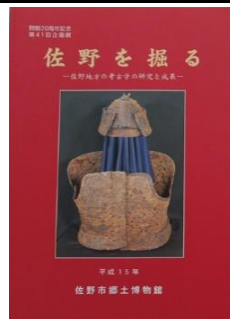
図 録	発 行 年	回	題	価 格	内 容
	平成19年 秋	第48回	天明釜	1,000円	天明の茶の湯釜は、野趣に富んだ素朴な作風で茶人に大いに好まれた。筑前の芦屋釜とともに、「西の芦屋に、東の天明」と天下にその名が知られる。天明湯釜のみならず、芦屋湯釜の紹介もしている。
	平成19年 春	第47回	佐野の 近代日 本画	1,000円	佐野市小中町出身で、日本歴史画の基礎を確立した小堀鞆音と京都出身で諸国周遊後、南画家(南宗画の影響を受け独自に発展。多くは水墨もしくは淡彩で表現)として名声を得て、佐野市田沼町に定住した王欽古を紹介する。
	平成15年 秋	第41回	佐野を 掘る	1,000円	佐野市内の考古学調査の歴史や成果をまとめている。八幡山古墳の調査がカラー写真で掲載され、全国的にも出土例の少ない三角板革綴式の衝角付冑が出土した様子が確認できる。
	平成14年 春	第38回	安佐の 山々の 生いた ち	1,000円	安佐地方の山々の地層と岩石、含まれる化石等について紹介している。
	平成13年 春	第36回	佐野の おかい こさま	1,000円	明治から昭和にかけ安蘇地域でも盛んに養蚕が行われた様子を紹介する。かつて人々がくらしの中で「おかいこさま」として大切にしていた姿を学ぶことができる。
	平成12年 春	第34回	縄文時 代のく らし	1,000円	佐野市内の縄文時代の出土遺物を中心に紹介し、約1万年続いた縄文時代のくらしについて紹介した図録である。全国のさまざまな土器なども掲載されている。

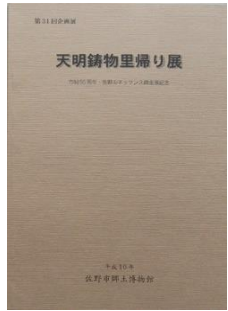
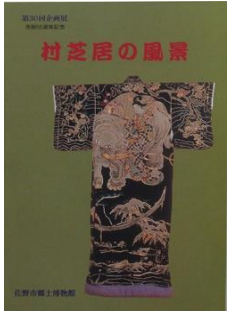
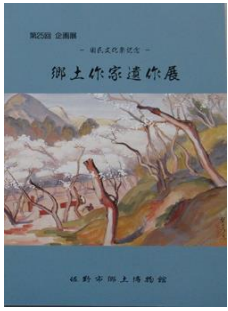
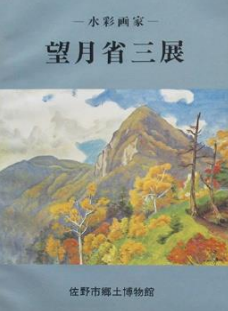
図 録	発 行 年	回	題	価 格	内 容
	平成10年 秋	第31回	天明鋳 物里帰 り展	1,200円	「梅竹文透釣燈籠」「極楽律寺尾垂釜」などの国重要文化財をはじめ、佐野市で制作され、市外に所蔵されている天明鋳物を紹介している。
	平成10年 春	第30回	村芝居 の風景	1,000円	江戸時代後期から明治大正に全国的にブームとなった村芝居。佐野地域でも盛んにおこなわれた村芝居とその農村舞台について紹介している。
	平成7年秋	第25回	郷土作 家遺作 展	1,000円	明治以降に活躍した郷土ゆかりの作家、高橋由一、望月省三、小堀鞆音、小林草月、田村耕一の作品展の図録である。
	平成5年春	第20回	戦時下 の市制 施行と 市民	1,000円	市政50周年、郷土博物館開館10周年を記念した企画展の図録である。太平洋戦争時、6つの町村を合併し、佐野市が誕生した。市政50年のあゆみがふりかえれる内容となっている。
	平成元年秋	第13回	面とか しら	1,100円	佐野市に伝承されている神楽や獅子舞などに使用される面やかしらを中心に、また、それらの成立のもととなる古面や人形芝居の首を紹介してる。
	昭和61年 春	第6回	望月省 三展	800円	佐野市出身の水彩画家で、代表作に市指定文化財「熱海梅林」のほか「秋の山」などがある。多数の愛好者や支援者がおり、市内に多くの作品が残されており、これらの作品を掲載している。

図 録	発 行 年	回	題	価 格	内 容
			クリア ファイル	300円	生誕180年、直訴120年を企画して作られたクリアファイル。正造お気に入りの肖像や「真の文明ハ…」の日記帳の写真、直訴状が大きく載っている。来館の記念に。2冊で1セット。
			田中正 造一筆 箋	300円	大正元年(1912)の田中正造の写真。すでに胃がんに侵されていたが、強い意志を感じるまなざしには、谷中村の問題に人生をかけ立ち向かう田中正造の姿がある。大事な気持ちを伝えたいときや、決意を伝えたいときにおすすめの一冊。